

会 議 録

会 議 の 名 称	吉川市障がい者計画推進協議会
開 催 日 時	令和 8 年 3 月 1 8 日 (水) 午後 3 時 0 0 分から 午後 5 時 0 0 分まで
開 催 場 所	吉川市役所 3 0 4 ・ 3 0 5 会議室
出席委員(者)氏名 (名 簿 順 標 記)	朝日委員、星座委員、岡崎委員、互委員、梶原委員、 野口委員、酒巻委員、西地委員、日暮委員、鈴木委員、 金井委員
欠席委員(者)氏名	山口委員、杉崎委員
担当課職員職氏名	程田課長、相川課長補佐、大戸主査、高橋主査、吉田主事
会議次第と会議の公開 又は非公開の別	1 開 会 2 あいさつ 3 議 事 (1) 吉川市の障がい者福祉の現状について (2) 第 5 次吉川市障がい者計画の進捗状況について (3) 吉川市高齢者等公共施設無料利用証の利用について 4 その他 5 閉 会 会議は公開とする
非 公 開 の 理 由 (会議を非公開にした場合)	
傍 聴 者 の 数	0 人
会 議 資 料 の 名 称	資料 1 吉川市の障がい者福祉の現状について 資料 2 第 5 次吉川市障がい者計画の進捗状況について 資料 3 吉川市高齢者等公共施設無料利用証の利用について
会議録の作成方法	☐ 録音機器を使用した全文記録 ☒ 録音機器を使用した要点記録 ☐ 要点記録
会議録確認指定者	西地委員、日暮委員
その他の必要事項	なし

審議内容(発言者、発言内容、審議経過、決定事項等)	
事務局	1 開会
	2 あいさつ
	3 議事
朝日会長	(1) 吉川市の障がい者福祉の現状について 事務局より資料1に基づき説明 計画相談支援の実績が年々増加傾向にあるが、吉川市全体でセルフプランによって支給決定をしている割合や実数はどれほどか。
事務局	1 8歳以上の方は4割程度、児童は6～7割程度である。
朝日会長	可能な限り専門員に相談し利用計画をつくることが大事だと思うが、事業所や担当者の不足によって、セルフプランに頼らざるを得ない現状であるということか。
事務局	現状として、全員分を補えるほどの相談支援体制は整っていないが、児童については、窓口でセルフプランと計画相談の説明をした上でセルフプランを希望する保護者が多い傾向にある。
野口委員	要約筆記者派遣事業について令和6～7年度で増えている現状だが、令和8年度の見込み量が1なのは何か理由があるのか。
事務局	令和8年度の見込み量は、第5次吉川市障がい者計画を策定した令和5年度に推計しているものである。令和5年度までは、利用実績がなかったため、令和8年度は増えるかもしれないとの予測で1を設定した。令和6年度からは、市外から転入した方が利用されて、令和7年度も利用実績が伸びている状況である。
野口委員	就労移行支援の実績が年々増加傾向にあるが、実際に一般就労した割合や実数が分かれば知りたい。
事務局	増加傾向にある理由としては、利用者のうち精神障害者保健福祉手帳所持者が多いため、近年の精神障害者保健福祉手帳所持者の増加に伴いニーズが増えていること、休職中の方のリワークを目的とした利用のニーズが増えていることが考えられる。実数については把握していない。
星座副会長	地域によって、就職先が増えると実績値が増え、求人がないと実績が伸びないという実態があるため年度ごとの実績値にはばらつきがあるが、彩凜会ひだまりの就労移行支援の実績としては平均5割程度となる。 また、就労選択支援の実績値について、令和7年度は0ではなく1に修正をお願いしたい。

金井委員	特別支援学級数と児童・生徒数について、小学校と中学校を比較すると中学校では学級数と児童・生徒数ともに減少しているが、小学校を卒業した方たちは特別支援学級と普通学級のどちらに進学しているか人数を把握していれば知りたい。
事務局	表中の小・中学校の数値については、それぞれ6学年と3学年という学年数の違いにより学級・生徒数の総数に差が表れたと考えられる。小学校を卒業後の進学先については把握していないが、中学校の普通学級への進学数は少なくなる実態はある。
金井委員	重度障害者等包括支援の実績が令和3年～7年度で0となっているが、重度障害者等包括支援とはどのようなサービスなのか。
事務局	最重度の障がいを持っている方の重度訪問看護、その他障がい福祉サービスを複合的に1箇所の事業所が行うサービスである。吉川市では支援の対象となる方は数名いるが、吉川市をはじめ埼玉県東部にはこのサービスを提供可能な事業所がないため、対象の方についてはグループホームや施設入所支援に進むというのが実態としてある。全国でも提供可能な事業所は限られており、実際の利用も少ない。
星座副会長	(2) 第5次吉川市障がい者計画の進捗状況について 事務局より資料2に基づき説明 ピアサポート対象の方が就職に進むとピアサポーター雇用の実績値としては0となるため、雇用人数のみを目標達成度の評価の対象にするのは妥当ではないと思われる。研修体制や環境整備など、人材育成に日々尽力しているため、そちらを評価の対象にさせていただけるとありがたい。
朝日会長	ピアサポートを用いた取り組みを継続していることや、環境整備を評価の対象とすることが大事であると思われるため、次回目標達成度の評価軸を考えるためのご提案であると感じた。 また、吉川市役所の障がい者雇用率について、令和7年度は達成の見込みがあるとのことだったが、法的雇用率が3.0%に引き上げられるため、目標達成に向けて今後も尽力していただきたいと感じた。
西地委員	昨年度の協議会で、サービスガイドのリンクをHPに掲載するようお願いをしたが、対応してくれたことでとても便利になった。 また、あいサポーターキッズ講習会について、メール等で周知していたチラシの記載を見ると、障がいがあることの大変さが一番に伝わる印象があったため、「障がいがなくて良かった」という学びで終わらないように、当事者の方からお話を伺うなど研修の内容を工夫することで、障がいがあっても助け合えることなどの学びが得られる研修となるように検討していただきたい。
事務局	チラシの記載については、できるだけ多くの方に興味を持ってもらうことを念頭に作成しているところだが、障がいについて誤った認識を与え

	かねない内容とならないよう、文言などを検討し適切な周知を図っていききたい。また、研修内容に障がい当事者の方の話を加えるというご提案については、あいサポーター研修での実施実績も踏まえ、来年度の実施プログラムを検討していく。
金井委員	市HPやサービスガイドに、重度の精神疾患を持つ方を対象とした内科や眼科などの訪問診療の病院があれば載せていただけるとありがたい。
岡崎委員	精神科の訪問診療はあるが、総合的に診療可能な訪問診療の病院について、保健所においては把握していない。
野口委員	アウトリーチ事業について、令和6年度から7年度の実績値が大幅に減ったのは何か理由があるのか。また、アウトリーチ事業とはどのようなものか。
事務局	実績値については、それぞれ延べ件数と実件数で記載しており、比較できないものとなっているため、来年度の資料作成時に修正する。 アウトリーチ事業は、令和6年度の新規事業で、吉川市社会福祉協議会に委託している。行政や事業所では把握しきれない何かしらの支援が必要と考えられる方へ、地域のさまざまな活動を通して支援の必要性を検討・案内、実施するための事業である。
金井委員	すでに燃料券の交付を受けた場合でも、タクシー券に交換可能か。
事務局	未使用の場合に限り可能である。
朝日会長	(3) 吉川市高齢者等公共施設無料利用証の利用について 事務局より資料3に基づき説明 議事3について、方向性や在り方を決めるのではなくさまざまな意見を出すことを目的として話し合いを進めていく。 無料利用証が適用となる施設の中で、一番利用料の高いものは何か。
事務局	中央公民館のホールと思われる。
朝日会長	不公平という声が上がるということであつたが、無料で使えることに対してか。
事務局	声上がるのは無料利用証の使い方についてで、少人数でも大ホールの予約ができることや、無料で利用可能が故に予約しても無断キャンセルをする団体があることなどに対しての意見だと把握している。そのため一定のルールが必要な場面があるのではという声もある。
朝日会長	委員の方の中で、実際に利用している方から意見を伺いたい。
酒巻委員	無料で利用できることはとても助かる。個人的には、自分の会は会費を徴収して運用しているため、利用料が発生しても構わないと考えてい

鈴木委員	る。全額でないにしても半額といった割引などの方向性でもよいのではと思う。 障がい者団体の要件に該当しなかった頃は利用料を支払っていたが経済的な負担は大きかった。今は市からの助成もあり大変助かっているが、市の財政の面を考慮すると何割かでも自己負担となるのも納得できる。一方で、無料利用証の利用マナーについては、利用者が気を付けていくことだと感じた。
西地委員	団体の割合について、障がい者・子育て団体よりも高齢者団体がかなり多い。障がい者・子育て団体は、金銭的にも苦勞されている方が多い中で、プライバシーや安全が確保された状態で意見交換できる場を無料で設けられることがとてもありがたく、大変助かっている。高齢者団体は趣味のサークルなども多い印象のため、利用料については余裕があれば高齢者団体に負担してもらいたいというのが本音である。
星座副会長	団体の利用証の運用がなかった頃は、借りる度に予約をしに行くという手間があった。手帳の提示で個人は利用可能ではあるが、障がいを持った方1人1人に提示させる困難もあるため、団体として1つの利用証があるという簡潔さはとても便利である。団体の活動場を確保できるという意味でも、団体の利用証発行は継続していただきたい。
野口委員	ろう者の自立を目的とした、ろう者同士の交流の場として活用しており、とても助かっている。そのため、引き続き無料をお願いしたいと思っている。
朝日会長	皆さんの意見に共通していることは、この制度が果たしてきた社会参加の機会やプライバシー・安全の確保を継続してほしいということだと感じた。一方で、利用料については状況に応じて軽減をしたり、経済的な状況を踏まえた上で負担していくことも考えている方が多いと感じた。また、無料利用証の利用マナーについては全体で共通化させていく必要があると思う。 4 その他 なし 5 閉会
	以上、会議の内容に相違ない事を証するため、ここに署名する。 令和 8 年 6 月 10 日 署名委員 日暮和子 署名委員 西地由美子